

R 4 全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (算 数)

◎・・・優 ○・・・良 △・・・可 コメント可

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	改善状況
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 操作活動を繰り返し、間違えずに計算できる児童が増えた。文章題の立式で迷う児童への指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の意味と操作活動を更に関連付けて、立式させる。 具体物・半具体物を用いた活動などを通して場面の意味を理解できるようにする。 	○ ○
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 長さの測定や直線を引くこと、水のかさを読み取る指導。 文章題で聞かれている内容と式を結び付ける指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で繰り返し経験させる。 半具体物（タイルなど）を用いた活動を設定する。 聞かれていることにアンダーラインを引かせる。 	○ ◎ △
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 長さや時間では、計算をしたり目盛りを読んだりすること、mとkmの単位換算の指導。 かけ算の基本的な定着への個人差に応じた指導。 発展的な問題の指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な課題を提示し、既習事項を生かして、図や式などに表して自分の考えがもてるように工夫する。 ペア発表やノートを見合うなどの学習形態、学習過程を工夫して、自分の考えを表現することに慣れさせる。 授業でかけ算の復習を取り入れたり、日常的に時刻や長さなど繰り返し経験させたりする。 発展的な問題では、図をかくなどして視覚的にも分かるように指導する。 	○ ○ ○ △
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 正確に作図する指導。 計算練習等の基本的な処理の指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 作図の仕方を常に提示して、視覚的に捉えさせる。 ペアで見合う時間や個別に確認する時間をとる。 習熟の度合いに合わせて各コースに必要な課題を設定する。 	◎ ◎ ○
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算やわり算の理解や、作図などの技能を確実につける指導。 問題を読み、条件に応じた立式の指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟の度合いに合わせて各コースに必要な課題を設定し、補充や発展の内容を意識して授業を展開する。 文章題の立式の際に立式の根拠をはっきりさせる。数直線にかくことで、根拠を視覚的に捉えやすくする機会を積極的に設ける。 	◎ ○

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の基礎的な処理能力の向上を図るための個に応じた指導。 ・ 問題に応じた立式ができる指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟の度合いに合わせて各コースに必要な課題を設定し、習熟や発展の内容を意識して授業を展開する。 ・ 課題や活動を工夫し、自ら考える楽しさが味わえる場を設定する。 ・ 数直線や図を利用して問題を解く力を身に付けさせる。 	<p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p>
------	---	--	----------------------------